

青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

芸術の道 人の輪が支えてくれた

慶応高校（塾高）OBで日本画家の千住博（57、1976年卒）と作曲家の千住明（55、79年卒）、慶応女子高OGでバイオリニストの千住真理子（53）の「千住3兄妹」を知らない人はいないだろう。

博は塾高で美術部に所属。隣



「塾高の仲間たちは最高の宝物」と話す千住博

慶応高校 7



「僕は3兄妹の中でも『ブラック千住』です」と笑う千住明

のクラスから見に来るほど、絵のうまさは有名だったという。日本画との出あいは卒業間際のことだった。美術の先生から招待され、日本画の展覧会に行つた時、キラキラ輝く岩絵の具などの素材に引き込まれた。「元

弟の明は校内や校外で、五つほどのバンドをかけ持ちしていた。「日吉祭（文化祭）では今より忙しかった」と笑う。練習後に終電を逃し、渋谷や表参道の地下街に新聞紙を敷いて寝たこともある。高2の時、授業に出ずに日吉駅そばの喫茶店にい

たことがばれた。一緒にいた友達の名前を言うように先生から詰問されたが、最後まで口を割らず、自分は停学処分。塾高の3年間を振り返り、「『音楽で生きていくんだ』という確信と同時に、一生の仲間を得ることができた」と話す。

明は卒業後、いったん慶応大工学部に進んだが、博の強い勧めで東京芸大に入り直した。博と明の修了作品は、「芸大買い上げ」となった。

富田はシンセサイザー音楽のパイオニアとして知られる。最近もパーチャルアイドル「初音ミク」とコラボするなど、新たな音楽ジャンルを開拓し続けている。「お客さんに喜んでもらうために、新しいことにも挑戦し続ける。もし塾高にいなかったら、そういう自由な発想は出て来なかったと思います」



「塾高時代に私の音楽の原点が培われた」と話す富田

代わる代わる真理子の部屋に来て、「大丈夫？」と声をかけてくれた。逆に、博が日本画の世帯に進むかどうか迷っていた時、真理子は「お兄ちゃんぐらいい、私が食べさせてあげる」と言って背中を押した。博は「その後、同じような言葉で僕を支えてくれた」と言う。

博が「真理子を世に出してくれた恩人」と尊敬する作曲家の富田勲（83、51年卒）は、愛知

県の高校から塾高の2年に編入した。周囲には「音楽青年」がたくさんおり、「あそこの古本屋で〇×の楽譜が買える」といった新しい情報を常に持っている。そういう友達と音楽について語り合った。「お互いに深く入り込まず、いい距離感だった」と話す。